

□ 文化の伝承

江戸時代からの斑入り植物

横井政人

「花葉」23号9ページ(2004年)で、浜名湖花博 園芸文化館に私が出品した斑入り植物について概略を記した。ここに陳列した62種類の斑入り植物は、江戸時代発刊の「草木奇品家雅見」や「草木錦葉集」に記載された種類で、原図と比較して同じものと考えられる種類を選んだ。

本号では花博で展示した斑入り植物を中心に、若干の原図をあげ、原著の解説および現状を記すことにする。

利用した書籍を以下に挙げる。

原著：

1. 「**草木奇品家雅見**」(文政10年)(1827)
青山種樹家 金太、染井花屋 源二著
天〔上〕地〔中〕人〔下〕の3巻から成る。
2. 「**草木錦葉集**」(文政12年)(1829)
水野忠暁著
前編：巻1 い~へ(いろは順)
巻2 と~わ
巻3 か~よ
後編：巻4 た、れ、そ
巻5 つ、ね
巻6 な、ら、む(ここで終了)

参考書：

1. 「**草木奇品家雅見**」解説 監修 岩佐亮二
前島康彦、笠原基知治、横井政人、広瀬嘉道
(青青堂出版 昭和51年)
2. 「**草木錦葉集**」解説 監修 塚本洋太郎
芦田潔、岩佐亮二、岡村はた、広瀬嘉道、前島康彦、
横井政人
(青青堂出版 昭和52年)

解説記載法：

奇 = 「草木奇品家雅見」上、中、下巻
奇上(巻) - (原本)10(ページ)
{解説本}15(ページ)
錦 = 「草木錦葉集」1~5巻、付録
錦1(巻) - (原本)24(ページ)
{解説本}15(ページ)

1. **アオキ 荒木亀甲あを木** 奇下 - 12 (307)

このアオキ品種は現在人気のある「駿河弁天」、または「三河弁天」という品種と葉形、斑入りがそっくりで、江戸時代にはカメのこうらの形から亀甲あお木と名づけたと思う。栽培者は四谷荒木横町 弥次兵衛とある。



アオキ 荒木亀甲あを木

2. **アオキ 天か下あを木** 奇下付録 - 11 (408)

覆輪アオキで現在あるものに似ている。斑入りの安定性が強く人気がある。



アオキ 天か下あを木

3. **アカメガシワ** **さはきり** 奇上 - 25 (89)

解説がないが葉形、斑型が現存タイプに似ている。実生から同じタイプの斑が発現するので保存は容易で、販売されている。

4. **アスナロ 黄斑あすなるふ** 奇下 - 13 (316)

同じタイプの白色斑入りが、現在ときに販売されている。ただここでは「色よき黄斑なり」と説明されている。



アヤメ かまくらあやめ

5. **アヤメ かまくらあやめ** 奇下 - 16 (329)

本所 善右衛門の名がある。現存品種と同じ。

6. **アリドシ 松本丸はふくりんありどし** 奇中 - 5 (127)

当時アリドオシの変化が多く見られたようである。本図の品種は現存のものほとんど同じと思う。現在は散り斑の品種も売られている。

7. **イスノキ 上ふくりんひょん 奇中 - 20 (181)**

現存の覆輪品種と同じに見える。本種は今でも一名ヒョンといっている。常緑低木。



イチョウ 白布いちょう

8. **イチョウ 白布いちょう**

錦 1 - 6 (30)

中国原産の落葉高木であるが、既に江戸時代には斑入りまでが普及していたようである。

9. **イチョウ 金王いちょう**

錦 1 - 6 (32)

稀に現在販売されているイチョウの縞斑で正確な図には驚く。葉型も変形する変わった品種。

10. **イヌツゲ 水の白ふくりん 錦 5 - 17 (768)**

イヌツゲの斑入り品種は現在でも多いが、既に江戸時代にもいろいろ見つけられていた。10品種以上が記載されている。

11. **イブキ 水のかまくら青布 錦 1 - 6 (20)**

現存するイブキ斑入りと同じと思う。「文政四年、大久保村金助より入る」とある。筆者の生まれた土地なのでなんとなく親しみがでる。

12. **イヌマキ おきすなごふくりんまき 奇中 21 (187)**

よく似る散り斑品種がありオキナマキと呼ばれている。ラカンマキの斑入りかもしれない。現存品種に似る高室きふなんばんまきがある(奇上 - 11 (28))。

13. **イボタ いぼた白布、黄布 錦 1 - 8 (44, 45)**

図柄は現存イボタとそっくりで、花も描かれている。斑の変化の激しさもわかる。

14. **ウチワサボテン 高橋さぼてん 奇中 - 16 (166)**

現存名が「初日の出」と呼ばれる品種がぴったりで、既に江戸時代にサボテンが渡来していることがわかる。図は前号参照。

15. **ウバメガシ 岩目砂子 錦 1 - 5 (5)**

岩目が現在ウバメとよばれている。解説に白砂子斑とあり現存斑入りと同じに見える。普及品。

16. **ウメ おきな梅 錦 6 38 (1001)**

現在でもオキナウメ(翁梅)とよび斑入り品種の代表である。正確な図で驚く。またキンショウバイ(錦生梅)という枝に黄斑が入る品種も現存する(錦 6 - 38 (1007))。



ウメ おきな梅

17. **オカメザサ 孫次豊後竹 錦 4 - 4 (567)**

現在はシマオカメザサとよびまったく同じ図柄が描かれている。珍しいが現存する。巢鴨産とある。

18. **カクレミノ 石川かくれみの 奇上 - 20 (65)**

本図も現存品種とまったく同じ柄で、この斑柄品種の大木が茨城県で見つかった。普及品種。



カクレミノ 石川かくれみの

19. **キク 玉川の月
奇中 - 16 (161)**

記載に「瀬田村行善寺近辺は菊花を愛る」とあり、「白斑が見事也」と書かれている(略記)。キクの同じ斑型は現存。



キツタ 二色つた

20. **キツタ 二色つた 錦 5 - 21 (807)**

冬に白斑部分が紅色がかかるというので、この名がつけられたのであろう。

21. **キャラボク きふ須藤男きやらぼく
奇中 - 42 (259)**

現存の斑入り品種とよく似ている。

22. **クチナシ ふくりんくちなし 奇下 - 9 (301)**

よく似ている斑型品種が今でも見られる。

23. **クワ 木原べっこふくわ 奇中 - 24 (197)**

本図とそっくりな斑入り品種が現在販売されている。

24. **コウヤマキ なるせかうやまき 奇中 - 4 (119)**

成世候は麹町の名園で、奇品が好きな人とある。現在

貴重な斑入り品種として少ないが販売され、各地に大切に植えられている。図は前号参照。

25. サカキ ながしまさかき
奇上 - 3 (4)

当時から多くの斑入り品種があったようである。現在でもいろいろな型の斑入り品種が栽培されている。本図は覆輪、中斑品種は奇上 - 23 (76) にある。



サカキ ながしまさかき

26. サングジュ 浅井さんごじゅ 奇上 - 18 (60)

現存品種と同じ斑入りがある。浅井は四谷新邸に住む愛好家の方である。

27. シノキ ふくりん小葉しい 奇上 - 9 (25)

シノキ覆輪品種は現在普及しているが本図の覆輪と同じかどうか疑問である。

28. シマカシ 永縞しまかし 錦3 - 9 (422)

永縞宅の木から「枝替り」したとある。すばらしい図で現存品種とぴったりである。

29. シラン 紫らん 錦6 - 33 (968)

最近の本図のような縞斑品種も販売される。

30. ジンチョウゲ 青ふくりん 錦2 - 12 (254)

ここに17品種ほどの斑入り品種が記載され、なかに現存品種もある。本図のものは最近繁殖されるようになった。特によい深覆輪品種は大ふくりんと呼び奇上 - 2 (2) にある。

31. ソテツ 雲峰ふ入りそてつ 奇中 - 43 (268)

雲峰大岡翁は四谷の人。最近では似た斑入り品種がまれに見られる。

32. チャノキ はた長茶の木 奇中 - 41 (257)

「草木錦葉集」2巻 7に他の多くの斑入り品種が描かれている。現在斑入り品種は少ない。

33. ツバキ 錦5 - 6 ~ 16、奇付録 - 7 など

斑入り品種は両古書に多く描かれ、現在より多い。

34. ツワブキ 錦5 - 22 (813、815など)

現存。



ツワブキ

35. テイカズラ 初雪かつら 錦3 (470など)

現存する斑入り。今でも人気あり。

36. テリハノイバラ 錦いばら 錦1 - 7 (37)

現在ゴシキバラとよばれ白散り斑で美。

37. トクサ 深沢とくさ 錦2 - 4 (201)

現在でも栽培される。青山産。

38. ドクダミ 重やく 錦2 - 14 (270)

本図の品種は刷毛込みで、この型の品種はまだ珍しい。ふつうは覆輪タイプ。

39. トベラ 四軒ふくりん

錦2 - 3 (188)

この型は現在公園などに多く植栽される。亀五郎など4軒の家で発現したため四軒とよぶ。



トベラ 四軒ふくりん

40. ナギ 水の丸葉

錦6 - 4 (824)

現在は珍しい斑入りであるが、当時はひじょうに多かったようで、12ページにわたり図示。



ナギ 水の丸葉

41. ナンテン まえだなんてん

奇中 - 9 (141)

最近見られるようになったが、当時は斑入り品種が多かったようである。

42. ネズミモチ 今の黄布鼠もち 錦5 - 22 (818)

まれに現在似た斑入り品種を植栽する。

43. ノブドウ 錦ぶどう 錦1 - 24 (159)

現在ニシキノブドウとよび白散り斑が人気。

44. **ハクチョウゲ 白丁花ふくりん 錦** 1 - 14 (97)

同様な斑入りが普通に生産販売されている。

45. **ハボタン 葉ぼたん 錦** 1 - 20 (118)

今年のフラワーオークション
ジャパンのフェアで九州からの
完全覆輪のハボタンの展示があ
り、発売するとのこと。本図と
同じタイプである。これまでも
ときには覆輪斑が発現したが、
保存が難しく消えている。



ハボタン 葉ぼたん

46. **ハラン 近江葉らん、星葉らん、爪白葉蘭斑入**

錦 1 - 16、17 (106、108~111)

今でもごく普通に栽培されるハランですばらしい図で
ある。



ハラン 近江葉らん ハラン 爪白葉蘭斑入

47. **ヒイラギ 黄金柎**

奇付録 - 8 (379)

「その色至てうるはし」とある。カラーリーフ品種の
最初かもしれない。



フッキソウ 吉事草

48. **フッキソウ 吉事草**

奇中 - 19 (169)

現在でも普通に植栽される宿
根草。覆輪タイプから刷毛込み
斑まで見られる。

49. **ベンケイソウ 弁けい草 錦** 1 - 29 (184)

この図の斑入りは中斑で今でも覆輪品種とふつうに植
えられている。

50. **ホシケイラン きんけいらん**

錦6 - 23 (957)

今でもふつうに栽培されている
星斑品種。



ホシケイラン
きんけいらん

51. **マテバシイ 黄斑まで葉かし**

奇付録 - 9 (384)

現存するとは思わなかった斑入り品種。三上常夫氏が
らいただいた。本図と斑はほとんど同じで貴重品種。

52. **ムクゲ はちす白布 錦** 1 - 16 (90)

現存する品種。品種名は不明。



ヤツデ ふくりんやつで

53. **ヤツデ ふくりんやつで**

奇上 - 11 (27)

現在もっとも多く庭植えされ
る斑入り常緑低木。図は見事。

54. **ヤブラン 麦門冬黄布**

錦 1 - 16 (102)

ふつうヤブランといいごくふつ
うの品種。



ヤブラン 麦門冬黄布

55. **ユキノシタ はつれゆき**

錦 1 - 23 (116)

覆輪品種で似た品種は現存する。

二古書にはその他多くの現存種類、品種の図、解説が
ある。例えば、アカガシ、アザミ、イズセンリョウ、イタドリ、イチ
ジク、イチハツ、イヌワラビ、イロハモミジ、イワキ、イワヒバ、イワレン
ゲ、エビネ、オウバイ、オオバコ、オモト、カイドウ、カキツバタ、カキド
ウシ、カキノキ、カナメモチ、ガマ、カヤノキ、カンチク、キキョウラン、
キリンカク、コウゾ、コクチナシ、サギソウ、サクラソウ、サクララン、サ
ザンカ、サンショウ、シキミ、シャクヤク、シャリンバイ、シュンラン、シ
ンビジウム、スギ、スミレ、ダイダイ、ダルマガク、チドメグサ、ツゲ、ツ
ツシ類、ツルウメモドキ、ツルドクダミ、ツルニチニチソウ、ドウダンツツ
ジ、トサミズキ、ナツツタ、ナワシログミ、ヌルデ、ハコネウツギ、ハナシ
ョウブ、ハナミョウガ、ハマボウ、ヒサカキ、フソウゲ、フトイ、ホウチ
ャクソウ、ホオズキ、ボケ、ボタン、マサキ、マツ、マンリョウ、ムラサキ
オモト、ムレスズメ、モッコク、ヤブカンゾウ、ヤブコウジ、ヤブサンザシ、
ヤブニッケイ、ヨモギ、ヨメナ、リュウノヒゲ、ワレモコウなどがある。
今世紀のわれわれにとって、これらの200年前の江戸時
代に発現している生きた文化遺産の再認識および保存
は、重要な課題の一つであると信じる。